



新年おめでとうございます

昨年中は月例山行、登山道整備をはじめとする会の諸行事に多くの会員の出席をいただきありがとうございました。

昨年は「山の日」が新たに国民の祝日となつた記念すべき年でありましたが、今年も会員の皆様が健康で、それに安全で感動にあふれる山との関わりが持て、一層その意義が深められること、ならびに安達太良山の登山者無事故をお祈り申し上げます。

平成十九年元旦

山行 安達太良山

報告 阿部健

あだたら山の会 会長 大内 学

若干寝過ぎて 四時三十分前に起床。五時

しかし日の出の時刻六時五十分近くになると周囲がガスって来てしまった。体まず山頂まで急ぐ。七時五

達が 繕麗な 曰の出が見えたようだ。

十分着、山頂の祠に持参した鏡餅を上げ無事故を祈願する。登山道は、途中吹き溜まりに四十、五十五センチの雪があるだけで、夏道状態。会ったのは勢至平から登ってきた若いペアも含めて往復十人、九時には奥岳着。気温も低くなく快適な三十五回目の正月山行でした。

A group of six hikers, dressed in winter gear like jackets, hats, and sunglasses, stand in a snowy landscape. They are positioned around a wooden signpost that reads "五葉松平". The background shows snow-covered ground and distant mountains under a clear blue sky.

10時17分、五葉松平標柱、積雪はこの程度

元日は山頂まで往復した
阿部さん情報でも、山頂
直下も含めて雪は付いて居
るが藪が雪に埋まって居ら

は午後二時過ぎに到着した。

山頂遠望

た。この時期湯川渾谷は積雪・凍結などで歩けない状況では無い。

十二月三日(土)

十二月山行 大名倉山

報告 編集部



大玉村側登山道で、カメラ以外の全員

十二月の月例山行は忘年会の当日三日に本宮市大玉村境の大名倉山(五七一メートル)、午前九時二本松市役所集合、その時電話があり参加メンバーの内安齋さんが既に登山口にいるといふ、当日前用で早く下山しなければならないため、早めに行っているらしい。他のメンバーは定時に二本松市役所出発。大名倉山の東側登山口案内板に従って、部落を抜けて更に細い道を上ると、一番上に駐車場が

ある。便所の残骸なども事務所などがあったのかもしれない。午前九時三十分登山口発。十五分程登ると切り口発。十五分程登ると切り口通しがあるが、片側は「枕状溶岩」別の側は「新第三紀」の崖。抜けた広場で先行していた安齋さんから電話、上を見たら棟線にいる電気屋さんが見えた。「おおたまオーラムフェスティバル」の道案内看板からは、石取場を抜けて、擬木などで整備された登山道にな



10時32分、大名倉山山頂で早めの昼食

る。ここで下がってきた安齋さんと合流、参加者全員での写真撮影、十時にはNTTアンテナからの登山道と合流、十時十五分には大名倉山山頂に到着した。曇りだが風もなく暖かな日で、本宮から大玉・二本松・福島方面の眺めは実に素晴らしい。所要時間はユックリ歩いて四十五分だった。山頂では急速三浦さん達が調理開始、十時半には熱いコシニャクを頂くことが出来た。十一時十五分には下山開始。

下山後は予定通り、本宮市の安達太良神社へ。「あだたら山の会」という名を本殿裏には「招魂碑」があります。そっちにも駐車場がある。そこで横町に入る。(実は



ご馳走



20時34分、抽選会

忘年会は十二月三日、例山行大名倉山登山の日、午後六時から二本松市根崎の「かねすい氷月」で行われました。H二十五年から三年ぶりです。恒例の抽選会も盛況。なんと言つても圧巻は「明日があるさ」のダンス、仮装で一人ずつ現れる演出も上手でした。集合写真は仮装のままでお店の人にしてシャッター押して貰いました。参加者は十九名でした。



安達太良神社



19時14分撮影、シャッター押して貰ったので参加者全員

十二月十五日 未

太山報告



参加五名、午前十時到着。
登山口であるキャンプ場、
案内板、仮設トイレ、水場
もあるが、今は出ていない。
十時二十五分出発、ここから
ら登山道となる。杉林を抜
けると「猿滑りの滝」、雪
に埋もれ小さなツララを見
見、登山道から少し離れる
が「乳子岩」に足を延ばす。

日溜まりの平らな所の雪を払い準備して行ったナベを暖め楽しい昼食。午後一時下山、足元に氷を付け下る。途中から少し風も有り、寒くなり、顔や手が冷たくなってきた。駐車場二時二十分、無事帰宅出来るることを願い、二時三十分駐車場で解散した。

二本松市（旧東和町）と川俣町の境にある口太山（八四二メ）、東和町針道と川俣町からの登山口一スがある。今回は川俣町から入山する事にした。針道から三四五国道のトンネルを抜けて川俣方面へ進むと右側の火の見櫓が目印、部落道に入る。前日の雪で道路はアイスバーン、登山口駐車場、足跡はなく真っ白。晴天、風も無い。今冬初めての雪山を楽しむ事が出来

る。ヤセ尾根の岩場。若場を払い足場を作りながら登る。これが「猿の首取」と言われている、「迷い平山」を通ぎると、シグザグの山道を進むと、口太山山道を進むと、南東の方は林であるが、達太良・吾妻山・藏王連峰である。平らな広い山頂

南東の方は林であるが、達太良・吾妻山・藏王連峰である。山頂直下には今の初め見る霧氷、太陽にさらされビカビカ光って麗、山頂着十二時。

ここから急な尾根道となるが、ジグザグが何年か前に付けられ歩き易くなる。途中人工的に作られたと思う見晴場などがあり、北西の方に向の見晴しが良い。コース一番の難所、

A group of people wearing winter clothing and hard hats are gathered outside a building. One person in the foreground is holding a large red cylindrical object, possibly a snow blower or a similar piece of equipment. The building has a sign with Japanese characters above the entrance.

三、四人は下山したが約半人位協力をする。一時十五分火災報知器が鳴り従業員がハンドマイクで「火災が発生しました。小屋の外へ避難して下さい」と何回も呼びかけ、携帯電話で消防署などへ連絡、消火器も使ない本番さながらの訓練に参加することが出来た。訓練は約十五分位で終わり、直ぐ下山に付く。奥岳へは午後三時少し前に下山した。

報告 菅野善雄
今年最後の山行、安達太良山くろがね小屋に行こうと計画。奥岳十時少し前出発、途中会員四人程と逢う。くろがね小屋十二時。暖かい小屋でいつもの場所で定番の昼食。午後一時下山予定。ところが本日一時十五分より避難訓練を行います、協力をお願いしますと、小屋従業員より話があり、

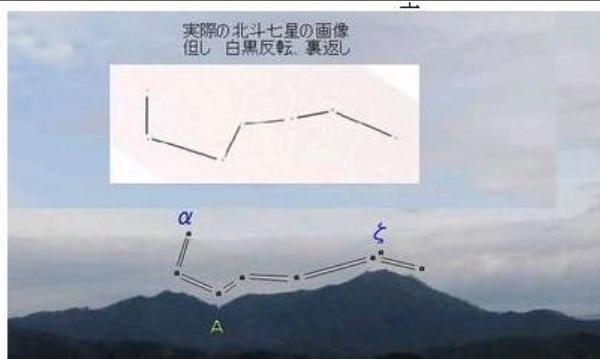
の出を迎えることができ、今年一年の安寧を願いまし
た。（深夜、車で走行中に丸森町で二頭のイノシシに遭遇）
(編集部注) 登山道のあちこちに、このようなポイン
トを設けるのも良い方法だと思います。

出を仰ぎに、元旦登山へ行つてきました。今年は、三十八回の元旦登山といふことで、多くの登山者が早朝より登山口へ集合。今回から「日本一早い」と銘打つての山開き式が午前五時すぎから行われ、その後に登山を開始し山開き記念の手ぬぐいが配られ、豚汁やコッペなどとの振る舞いがあり、昨年より多い登山者(催者発表三千五百名)が山頂を目指しました。



十一月十五日

一月一日



大名倉山、こう見ると北斗七星、七つ峰から



大名倉山登山口、左の道を辿る

白河・関山は
来月号に掲載します



冬山バト下山時、阿部副会長も会流



大名倉山山頂はこんなに広い